

# 「各種容器の環境影響比較」

評価実施者： 東洋製罐株式会社 資材・環境本部 環境部 吉村 祐美

## ● 評価の目的と製品の特徴

- 容量350mlのアルミ缶(DI缶、aTULC)、PETボトル、スタンディングパウチの環境影響評価
- 容器種による環境影響の違いを把握
- 環境影響の改善に活用



### 【DI缶】

- 一般的なアルミ
- 潤滑剤、缶内面の塗装が必要



### 【aTULC】

- Aluminum Toyo Ultimate Can
- 潤滑剤、缶内面の塗装が不要



### 【PETボトル】

- お茶等が充填できる耐熱ボトル(炭酸用途がないため耐熱ボトルとした)



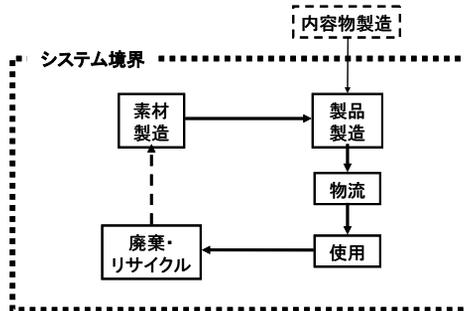
### 【スタンディングパウチ】

- 洗剤等で用いられる詰め替え用パウチ(飲料用途がないため洗剤用途とした)

## ● 機能単位とシステム境界

機能単位 : 350mlの内容物を充填・保護して、消費者に提供する容器1製品

システム境界 : 素材製造、製品製造、物流、使用、廃棄・リサイクルまで



## ● 調査方法

<インベントリ分析>

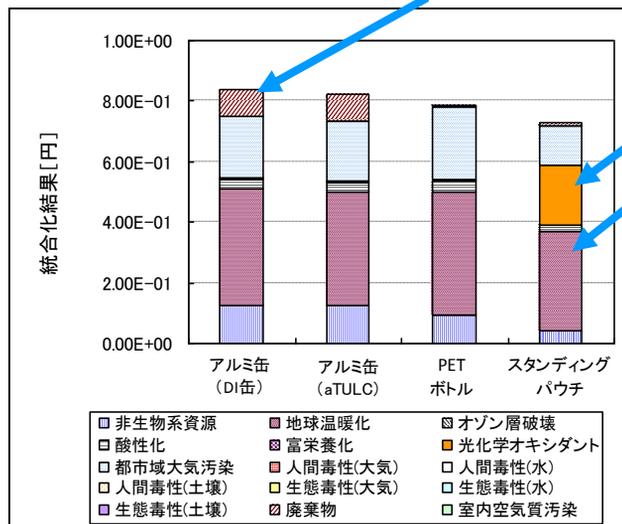
- フォアグラウンドデータ: 社内実測データ
- バックグラウンドデータ: エコリーフ単単位

<インパクト評価>

- LIME2

## ● 評価結果

【統合化結果(影響領域別)】



光化学オキシダント

地球温暖化

- 容器の種類では合計値の差はみられない
- 全ての容器において地球温暖化の影響が顕著
- アルミ缶は他の容器に比べ廃棄物の影響が顕著
- スタンディングパウチでは他の容器に比べ光化学オキシダントの影響が顕著

容器種により影響する環境領域が異なる

環境影響の改善は容器種によって異なる改善策を講じる必要がある

本評価の限界: 充填は全て同じ数値を代用、機能・特性の異なる容器を比較